

1. 2年生の皆さんへ

家庭学習の手引き

【令和6年度版】



不動中学校 年 番

氏名

がくりよく

学力をつけるためのポイント

① 学力の基盤は生活習慣

学力というものは毎日こつこつと努力を積み重ねることでしか身につけません。そのためにはまず生活習慣を整えることが重要です。生活のリズムが乱れていては学習を続けることができなくなり、学力が身につけません。

1. 体調を整える。
2. 3度の食事をきちんと取る。
(特に朝食。朝食を摂らないと脳が活発に働かない。)
3. 遅刻をしない。(自分で起きる)
4. 忘れ物をしない。(持ち物は前日にそろえる)
5. 夜遅くに勉強しない。(早い時間にする)

② 学校での学習

まずは授業が勝負です。

「わかりたい」という気持ちをしっかり持って、授業に臨みましょう。

1. 先生の話や友達の意見をしっかり聴く。
(ノートを書きながら聴くと内容は頭に入らない。)
2. わからないことは、その授業があった日に解決しよう。
(先生や友達に質問しよう。質問する力も学力のうち。)
3. 進んで発表する。
(発表したことはよく覚えられる。)
4. ノートは授業中にまとめる。
(黒板を写すだけでなく、ポイントなどはメモを取る。)

③ 家庭での学習

たとえ宿題がなくても、毎日の家庭学習が大事です。それは授業で理解したことについて時間をかけて覚え、何回も練習することが必要な教科もあるからです。だからと長い時間をかけるより、**集中して取り組む**ことが必要です。毎日必ず家庭学習を行う時間をつくりましょう。

1. 宿題は必ずする。

2. 学習を習慣化する。

決まった時間に、決まった場所で学習する。遅くまで勉強しても思ったほど効果は上がりません。それどころか生活のリズムを乱し、朝起きられなくなります。さらに学校の授業が集中できず、悪循環になってしまいます。

3. テレビを見ながら…、音楽を聴きながら…携帯をいじりながら…といったような「ながら」勉強はしない。

テストも静かな環境で受けます。だからこそ、集中できる環境で勉強しましょう。

4. 自分にあった学習の仕方を工夫・改善する。

教科書や参考書をただぼんやり眺めていても効果は上がりません。声を出して読んでみたり、ノートに何度も書いたりして覚えよう。要点をノートにまとめ、図や表や式を書くことは理解を助けます。

5. 『自主勉強ノート』を、毎日提出をする。

では、各教科の学習の仕方を参考に効果的な勉強を続けよう。

けいぞく ちから
「継続は力なり」

こくご 国語

国語の力をつけるためのポイント

- ① 何よりも授業を大切にする。
(忘れ物をしない。しっかり話を聞く。発表する。提出物を必ず出す)
- ② 教科書を音読する。
(黙読よりも目、耳、口を使うことで効果あり)
- ③ 現在習っているところの、分かりにくい言葉の意味を調べる。
- ④ 新出漢字や新出音訓を覚える。
- ⑤ 授業で使ったプリントをこまめに振り返る。
- ⑥ 分からないところはしっかり質問する。
- ⑦ 短い文章を読んで、感想文や要旨^{ようし}を書き留める。



<家庭学習の仕方>

【ふだんの勉強のしかた】

- ・ 新出漢字を繰り返し書いて練習する。
- ・ 文法や慣用句など、プリントやワークを使ってまとめる。
- ・ 授業で習った問題をノートを使って繰り返し解く。

【定期テストに向けての勉強のしかた】

- ・ 教科書を音読する。
(※テストでは問題を読まなくても内容が分かるくらいまでやってみよう)
- ・ ワーク・漢字マスターを繰り返しやる。
- ・ 授業で使ったプリントを見直す。



数学

数学の力をつけるためのポイント

① 授業を大切に

○遅刻、忘れ物をしない。

○説明を聞くととき、ノートに書くとときの区別をつける。

先生の説明は集中して聴くこと。ノートはただ写すだけではなく、理解しながら書くこと。計算は途中の式もきちんと書くこと。

○わからないことは質問する。

説明を聞いてわからなかったことはそのままにしないで、班の人や先生に聞いてその日のうちに理解することが大事。

② 家庭学習をがんばる（復習を中心に！）

○計算練習を欠かさない。

なんと言っても計算は数学の問題を解くカギ。毎日の計算練習だけは欠かさないようにしましょう。「計算問題を10分間解く」、「その日解いた例題をもう一度家で解いてみる」など、少しでも数学を復習する時間をつくりましょう。

○計算の途中の式もきちんと書く。

どんな解き方をしたのか、計算の途中の式もきちんと書くことが大切。答えが間違っていたら、どこでどう間違えたかをチェックすることが力をつけるもとになります。

○いろいろな法則や用語の意味を正しく理解する。

数学では、法則（共通の約束事）が土台になっています。この約束事や用語の意味は正しく覚え、守らなければなりません。

○わからない点をそのままにしない。

数学は積み上げの教科で、学習したことがらをもとにして、その上に次の段階の学習が行われます。ですから、わからない点をそのままにしておくと、次のステップの学習内容もよけいにわからなくなります。わからないままに先へ進まないことが大切です。

社会

授業について

- 1 忘れ物をしない。
- 2 先生の話をよく聴く。
- 3 ノートにしっかりまとめる。



ポイント

- ・丁寧な文字で書き、後で使えるノートにしましょう。
- ・見出しや学習課題をページの頭（最初）に書きましょう。
- ・余白ができてもしっかり詰めないで、次の授業（単元）は新しいページから書き始めましょう。
- ・自分の意見や調べた内容は消さないで置いておき、他の意見や内容はさらに書き足すようにしましょう。

- 4 自分なりの意見を考え、表現する。

- ・理由や根拠をもとに考えよう。

家庭学習について

【ふだんの勉強のしかた】

- 1 教科書を読み返しましょう。
教科書は最高の参考書です！！何度も読み返そう。
- 2 自主学习ノートに取り組みましょう。
 - ①教科書の本文を書き写す。
 - ②授業ノートをもう一度書いてみる。
 - ③テストブックの問題を解いていく。



【定期テストに向けての勉強のしかた】

- 1 早めにテスト勉強に取りかかる。
- 2 テストブックを繰り返ししよう。
 - ・答えを隠して何度もくり返し解いていきましょう。
 - ・自主学习ノートを利用し、答えを書いて覚えよう。



理科



授業でのポイント

○先生の話をしっかり聴く。

先生の話は、教科書の大事な内容をまとめてあるので集中して話を聞く。また、話を聞くとときとノートを取るときは区別する。

○観察や実験は班で協力し、取り組む。

話を聞くことよりも、実際にみんなで協力して、取り組んだことの方が頭に残りやすい。

○班で教えあいをしながら学習に取り組む。

教えられる方は、勉強になることはもちろん、教える方も理解しないと教えられないので、勉強になる。

家庭学習のポイント

○授業での重要ポイントを中心にその日のうちに復習を。

黒板に黄色やオレンジ色で書いた重要単語を中心に、観察や実験の注意点や結果をノートや教科書を見て、授業のあった日に復習する。探究の理科や、理科ノートの問題を丁寧に仕上げていきましょう。

○テスト前は、プリント、探究の理科、理科ノートを何度もやり直す。

人間は忘れる生き物です。テスト前はまず授業中に配ったプリントを解答欄を隠しながら2、3回解き直します。最終チェックで理科ノートや探究の理科を見直すと力がつきやすいです。

○理科に関係のあるテレビ番組やニュースなどを見る。

理科に関係することを目にするだけでも勉強になることもあります。難しいテレビ番組やニュースだけでなく、アニメやマンガ（参考に…）もやしもん、宇宙兄弟、テラフォーマーズ、はたらく細胞など）でもかまいません。理科は難しいものではなく、身近なものなんだということ意識してほしいです。

英語

授業でのポイント



○集中して聴く。

授業では説明をしっかりと聞いて、重要ポイントを理解しましょう。黒板の文字をきちんとノートにとることはもちろん、大事なことはしっかりメモしましょう！

○声に出して発音する。

先生やCDの英語をよく聞いて大きな声で発音しましょう。

○いろいろな活動に積極的に取り組む。

英語は、ことばの学習です。ただ黙って座っているだけでは身につけません。「読む・聞く・話す・書く」などの活動に積極的に取り組みましょう。

家庭学習のポイント



○授業で習ったところを、徹底的に復習する。

①音読（英単語・基本文・本文を声を出して読みましょう。）

②その後で、繰り返し読んだり書いたりしましょう。

（単語カード・基本文カードを作り、自分でテストをしてみましょう。）

忘れていても、繰り返し思い出すことで定着していきます！

③教科書の各部分を学習した後は、まとめとしてワークをしましょう。

○予習をして授業をうける。

単語の意味調べをし、教科書の本文を音読してきましょう。

○英語に触れる機会を作ろう。

- ・ALTの先生に積極的に話しかけましょう。
- ・英語の本（絵本や小説など）を読みましょう。
（英語教室や図書室にあります。）



・テレビの英語学習番組

『基礎英語を学んでみたら世界とつながった』…小学校英語から対応！

『リトル・チャロ』など

・ラジオ番組

『中学生の基礎英語』『中学生の基礎英語』『ラジオ英会話』など

- ・英語で日記や手紙などを書いてみましょう。（辞書を利用して書くことにもどんどんチャレンジしましょう。英語が身近になります。）